

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000076		
法人名	医療法人わたなべ内科クリニック		
事業所名	グループホーム桜の木	ユニット名	
所在地	福岡県柳川市矢加部230番地の4		
自己評価作成日	平成年月日	評価結果市町村受理日	平成26年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成25年12月26日	評価確定日	平成26年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「のんびりと」「その人らしく」「おだやかに」をモットーとし、柳川の自然豊かな環境の中で、入居者様がその有する能力に応じ、その人らしく暮らすために職員一同が、きめ細やかな良質のケアを行うよう努めています。家庭的な生活の中から安心感・信頼感が生まれ認知症が緩和されるようお手伝い致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺ほのどかな環境で、朝から畑の野菜を収穫する入居者や、登校する子供たちに笑顔で手を振る入居者(見守り隊)の姿は日常となっている。地域に根差したホームを目指し、25年9月には“子供110番の家”に加入し、ホームの玄関前に「介護相談を行います」の看板を立て掛けるなど、地道な取り組みを続けている。母体クリニックとの協力体制も密に行われ、院長先生も毎週往診に来て下さっている。看護師が勤務しており、入居者の健康管理や相談に即応できる体制も取られている。日々の生活では個別ケアが行われ、ご自宅に柿の木や栗の木があり、季節になると一緒に採りに行き、皆さんで食べる機会が作られたり、食事も手作りで、パン食(月、水)や麺、丼物の日を決めて変化を持たせており、希望に応じて毎朝パン食の方もおられる。今後も入居者と職員個々の能力を引き出し、日頃の頑張りを褒め合う環境を作ると共に、今後も引き続き、近隣の方々が気軽に立ち寄り、お茶会などができる環境作りを目指していく予定にしている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年々、理念は浸透してきているが、実践はまだまだ不十分である。	開設から3年、理念にある「のんびり」「おだやかに」は実践できるようになった。自立支援の視点も大切に、ご本人の要望も日々の生活で取り入れるように努めている。職員との大いなる意見交換も続けられ、業務改善にも取り組まれている。今後も全職員が理念を確認し、振り返りを行う機会を増やしていく予定にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お宮清掃は継続中である。定期的なボランティア訪問は続いている。行事の案内等は地域の案内板を活用している。	子供相撲大会や運動会と共に、地域の花植えや地区の総会にも参加している。ホームの敬老会に町内の子供たちを招待したり、クリスマスにはハンドベルの慰問に来て下さっている。ホームの玄関前に「介護相談を行います」と表示した看板を立て掛ける取り組みも行われ、入居者と一緒に、小中学生の登下校の見守りも続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議を活用し「認知症について」の話を行っている。 ・花火大会で地域の子供達を呼んで交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GHでのケアの状況や防災対策、ひやりはつについて報告を行い、ご意見提案を頂き質の向上に努めている。	花見と運営推進会議を一緒に行ったり、看護師による講和も行われている。駐在所の方をお願いして、防犯に関する講和もして下さり、相談しやすい関係ができています。入居者の平均年齢の資料を配布する事で、入居者の状況を具体的に報告できるようになり、風水害時の避難先の確認を行う等、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所への問い合わせ時や介護保険の書類手続き時にGHの現状を報告する機会を持っている。	主に介護支援専門員の方がホーム便りを持参し、定期的に市を訪問しており、柳川市の福祉バス停留所の、ホーム前への設置認可についての相談も行った。認知症型通所介護共用型の開設に関するアドバイスも頂いており、市からのお誘いで、認知症の方が行方不明になった時の事業者間のネットワーク作りにも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GHでの勉強会や研修会を行い、啓発活動を実施している。	玄関のドアはボタンを押せば開くシステムであり、入居者も早朝から、玄関横の畑にトマト等の収穫に行かれています。少し不安になられる方は、職員が個別に話を聞いており、帰宅願望が強い方は自宅にお連れすると共に、外出支援にも取り組まれている。馴れ合いの言葉になる時はお互いに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH内にて研修会を定期的開催し、意識付けを行っている。外部研修参加後スタッフへ、報告を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は必ず研修や講習会を実施し権利擁護の啓発に取り組んでいる。	管理者、チーフ(ケアマネ)が中心となり、ホーム内で権利擁護の勉強会をしている。ホームにパンフレットも置いており、入居時に制度の説明をしている。制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換を行うと共に、家族からの相談時は更に説明をさせて頂いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族との面談時間を設定し、個別に対応を行っている。場合によっては第三者機関への問い合わせも実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や2ヶ月に1回の御家族への「状況報告書」、運営推進会議等において意見を伺う機会を作っている。	「心配な事はないですか」と職員から家族に尋ねている。食事や外出に関する要望も聞かれ、随時、日々のケアに取り入れている。毎月の「桜の木だより」を楽しみにしている家族も多く、親睦会や食事会も行われ、家族同士の交流の機会も作られている。家族からは畑のアドバイスを頂いたり、苗などを頂ける関係も作られている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議やユニット毎の会議を開催し、話し合う機会を設けている。必要に応じて業務中にカンファランスを行っている。	職員の意見は増えており、研修会のテーマも職員で検討し、行事の企画、実行、反省を職員中心に行っている。開設3年目になり、改めて業務への率直な意見を伝えて頂く機会が作られた。会議のあり方や夜勤業務に関する意見も聞かれ、改善に向けた取り組みが行われている。委員会活動も続けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、スタッフ全員に自己評価シートを記入してもらい、話し合う時間をとっている。またスタッフの得意とするジャンルで能力を発揮出来るように、委員会を設置し、活動を実施中である。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	・60歳以上の方でもスタッフとして雇用し、培って来られた経験を活かしてもらおう環境の整備を行っている。 ・スタッフ個々の趣味や特技を仕事に活かしてもらっている。	採用面接は、事務長、ホーム長、チーフで行われ、お人柄(優しさ、穏やかさ等)を大切にされている。開設当初からの職員もおられ、職員の得意な分野(料理、畑仕事、文章表現、漫画等)を発揮して頂いている。優しい職員が多く、職員の長所を引き出す取り組みを続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	GH内での研修会において接遇や言葉遣い等についての意識付けの徹底を継続して行なっている。	毎月の会議の時には、「入居者への言葉かけには敬いの気持ちを持って・・・」など、院長や事務長の言葉をホーム長が職員に伝えている。ホーム長も日々の業務の中で、「人生の先輩として関わり、最後まで楽しく過ごせるように。認知症の勉強も続けていくこと」を職員に伝え、日々実践に繋げている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH内での勉強会や外部での研修会に参加する機会を作り、ケアの質の向上に努めている。外部研修に参加して研修の報告を全職員へ伝えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な施設訪問や事業所間での見学会を企画し、質の向上を図っている。地域の事業者であつまり交流会を行った。今後も定期的に予定をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に不安な点やわからない事に関しては、個別に時間をとり、対応を図っている。また、在宅や施設、病院等を訪問し情報収集の機会を設定している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配な事や解らない点、要望などについては入居前の相談時や面会時に、情報提供を行っている。御家族の方が納得されるまで話し合いをもち対応させて頂いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族との面会時間を設けてアセスメントを実施し、ニーズの把握を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日みんなで体操をおこない、1日1回は顔を会うようにしている。食事やお茶の時間は入居者の方と一緒に過ごしている。人生の先輩として敬う気持ちを常に持ち接している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者皆さんの部屋には家族の方の写真を飾り、家族との関係性を継続できるよう配慮を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの交友関係を継続できるよう御家族に協力して頂き支援している。	馴染みの場所や人などをセンター方式に記載している。友人の面会時は、よく行かれていた所などを教えて頂いている。年賀状を書く事が困難な方は職員が代筆しており、ご親戚の方から絵手紙が届いている方もおられる。馴染みの和菓子屋へ出かけたり、お寺の納骨堂に職員と行き、亡き奥様のお参りをされる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席など配慮し、良い関係が築けるよう努めている。入居者様 職員ともに助けあって生活している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となられた場合でも、お見舞いに行き経過をみている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や要望の把握を行うツールとしてセンター方式を活用し随時、検討を行っている。	入居者との信頼関係が深くなっている。「家に帰りたい」と言う思いも聞かれ、家族と自宅に帰られる方もおられる。お茶会をしながら、柳川の名物や昔のおやつ等を回想して頂き、ご本人の思いを引き出ししている。意思伝達が難しい方は表情や行動から思いを察するようにしており、センター方式も活用し、情報把握を続けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントにて生活暦の確認を行っている。ケアに関して詳細な情報を得たい場合は、家族への確認を実施している状況である。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式で収集した情報を元にして、日常生活の状況を介護日誌へ記載し、入居者一人ひとりの状態把握を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に御家族や入居者様の意向を確認し、希望に沿ったケアプランとなるよう努めている。	「配偶者のお見舞いに行きたい」と言う思いを大切に、1日毎のお見舞いを実現する事ができた。「お手伝いをしたい」と言う思いを伺い、茶碗拭きや洗たく物たたみ、見守り隊をして頂いている。買い物やドライブ、外食等も盛り込まれ、ご本人主体の計画が作成されている。	介護計画作成時には、家族の意向を伺うように努めているが、なかなか聞き出せていないとの事。今後も計画の中に、家族ならではの役割を記載し、その内容をきっかけにしながら、家族との話し合いの機会を作っていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの気付きも記録に残しており、業務に入る前に目を通して情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況の変化に対応し、固定的なサービスの提供に限定されずに柔軟な支援を実施している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	センター方式でのアセスメントや家族、ボランティアからの情報提供により、入居者の暮らしのサポートを行っている状況である。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にGHとかかりつけ医との連携を密に図る為や体調変化時への対応がスムーズに行えるようにわたなべ内科クリニックでの一本化を図っている。	協力医療機関からの往診(週1回)がある事から、全員、渡邊先生が主治医となっている。ホームに看護師が常勤しており、病院の看護師との連携もある。デイケアのPTや栄養士からもアドバイスを頂ける体制があり、歯科医の往診もある。往診結果の共有も家族と行われ、眼科等は家族が通院介助し、受診報告も頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックの看護師が日勤帯に常勤として勤務しており、入居者の健康管理や相談に即応出来るような体制をとっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やケアマネージャーが中心となり、医療機関への情報提供や収集を行い、入退院の支援の円滑化に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方について、御家族の意向を尋ねるようにしている。また、主治医や看護師と連携して御本人 ご家族の希望に添うように取り組んでいる。	ホーム長とチーフが主に意向確認している。「ホームで長く」と希望される方や、終末期への意向は「わかりません」という家族もおられ、随時、話し合いを続けている。重度化した場合は医師と連携し、入居者と家族の意思を尊重して、できる限りホームで暮らして頂き、最後は病院に転院する形となっている。24時間体制で、院長やホームの看護師に相談できる体制ができている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを常備し応急マニュアルを掲示し、確実に実行できるよう周知を図っている。また、月1回のスタッフ会議で様々なリスクについて、全スタッフの周知を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害や地震マニュアル等の勉強会を定期的実施している。また、関係機関との連絡先を掲示し、手早い対応が実施できるよう連携を図っていく。	スプリンクラーを設置し、コンセントの埃掃除もしている。防災委員を中心に、入居者、消防署職員と共に、昼夜想定で避難訓練を実施しており、運営推進会議の参加者にも訓練への参加をお願いしていく予定である。災害に備え、懐中電灯・ラジオ・非常用食品・缶詰等が準備されているが、今後も増やしていく予定にしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・居室に訪問する時は、急にドアを開けずに入居者の方の許可を取り、入室する。 ・毎月のスタッフ会議でプライバシーや人権尊重について勉強をしている。	管理者は、「常にこの日が最後」と言う気持ちを持って楽しく過ごせるように職員に伝えている。優しく穏やかな職員が多く、日々の言動も、入居者が不安や混乱に陥るような言葉かけをしないようにしている。守秘義務に関する研修も行われ、申し送りは事務所で行い、個人情報もシュレッダーにかけている。	時々、入居者の方が言われる言動(行動)に、強い口調になってしまう時があるとの事。その都度、声かけの原因を確認し、職員間で注意し合う関係もできているが、今後も全職員が言葉遣いに配慮すると共に、全職員が理念の唱和をしていく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の時は入居者の方に出掛けたいかの確認をとり、了解を得たら何処に行きたいかを尋ね、自己決定を促している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休まれる時間や起床される時間など入居者の方の希望に合わせて、何か取り組まれていたら強制的に中止したりしない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣を行っている時は服を選んでもらうようにしている。ボランティアでビューティーケアの方が来られ、希望される方にお化粧をして頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食物を尋ね誕生日や食事の時に提供を実施している。	食事委員会が献立を作成し、栄養士にチェックして頂いている。ホームの畑で野菜を収穫し、入居者も下ごしらえ(皮むき)や盛り付け、下膳、食器拭き等をして下さっている。希望に応じて“おにぎり”の方もおられるが、おにぎりの形も個別で、食べやすいように工夫している。花見弁当を楽しまれたり、ハイキングも取り入れている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が難しい入居者の方には、本人の好みを取り入れて提供したり、トロミをつけたりして対応を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力では上手にケアを行えない入居者の方にはスタッフが声掛けや介助を実施している。定期的に歯科往診にて、歯石とりを行い口腔の衛生保持の維持を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェックを記入し、排泄のパターンを把握し誘導や介助の目安として対応している。尿測を行い、個々に適したパットを使用して頂いている。	下着を着用している方もおられ、トイレでの排泄を大切にしている。個別の排泄リズムに応じた誘導が行われており、安易におむつを使用せず、尿器を使用して失禁が減った方もおられる。パットの大きさも個別に選定し、ポータブル利用に関しても、ご本人の意思を大切にしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ等の排便を促すような体操を行っている。また、毎日の朝食に牛乳を提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を伺い午前、午後と分けて行っている。時間帯なども本人に確認し入浴されるかの有無を尋ねている。	希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴の準備や着脱、入浴介助等も希望に応じて同姓介助が行われ、希望に応じてシャワー浴も行っている。入浴を拒まれる時は声かけを工夫し、体調に応じて2人介助も行われている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、家族から頂いた柚子湯を楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒暖の差が激しい時期は入居者の状況、体調をみて布団等の調節をする。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬の説明書をカルテに綴じ、スタッフが把握できるようにしている。薬剤師から薬の効用や副作用について情報提供を受けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の趣味や生活時間の過ごし方を参考にし、役割分担や余暇活動の支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・入院されている妻氏の面会に一日おきに行っている。 ・日常的に外出支援をおこなっている。	入居者による見守り隊が、登校する子供たちに笑顔で手を振られている。入居者がホームの畑を見に行かれたり、散歩や買い物を楽しまれている。花見(桜、梅、藤、向日葵、コスモス等)や柳川文人の湯(足湯)、大牟田動物園、道の駅(みやま、おおき、船小屋等)、日吉神社の菊見にも行かれており、入居者のリクエストで外食ツアー(立花うどんなど)も楽しまれた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は現金をお渡しして、自由に使えるように支援している。現金の保管と管理はこちらで行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の使用は自由にしてもらっている。毎年、年賀状を書いて送っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間は臭いや汚れがないように掃除をこまめに行っている。 ・気持ちが落ち着けるようにクラシックの音楽を流したり、リビングにお花を置くようにしている。	畳の間で気持ち良さそうにお昼寝をされる方や、畳に置いている座椅子に座り、テレビを見ている方もおられる。台所は対面式で、リビングの入居者との会話を楽しまれたり、リビングから見える田んぼの稲穂や庭の桜の木を眺める事もできる。廊下には写真や年表などを貼り、入居者同士の会話のきっかけになっている。ソファを家族から頂いたので、廊下に置く予定にしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに数多くの椅子やソファを置いて、思い思いに過ごせるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とご本人と話をしてお家の写真やご仏壇、遺影を飾っている。	ベッドは木製で心身状況に応じて手すりも付けている。馴染みのクッションやテーブル、椅子、炬燵などを置かれており、茶碗や箸、湯のみは日常の中で使われている。大切な仏壇や経典を持ち込まれている方もおられ、ご飯とお茶を毎朝職員と一緒に供えている。畳ベッドを利用しており、ベッドの畳を干し、快適な睡眠環境が作られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方には移動可能な手すりを使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			